

ジャガイモシロシストセンチュウの効果的な防除法の開発

研究期間	平成 28 年度～平成 30 年度
課題番号	2804
研究実施機関	Gp 防除法開発グループ ・(国研)農業・食品産業技術総合研究機構(北海道農業研究センター) ・北海道 ・(地独)北海道立総合研究機構(農業研究本部北見農業試験場)
研究概要	<p>平成 27 年 8 月に、北海道網走市の一部地域において、わが国で初めてジャガイモシロシストセンチュウの発生が確認されました。本線虫は、世界的にばれいしょの生産に重大な被害をもたらす病害虫として知られています。特に、ばれいしょを基幹作物として輪作を行っている北海道における本線虫の発生は、ばれいしょ生産及び輪作体系の崩壊を招きかねない重大な問題であり、本線虫のまん延を防止するためには、直ちに本線虫の防除技術を開発し、発生地域におけるまん延防止を図る必要があります。</p> <p>このため、本線虫発生地域の大規模ほ場での輪作体系に対し、線虫類の防除に有効な既往の各種技術を導入してその効果を検証するとともに、防除に掛かる経費のシミュレーション等を行い、それらを組み合わせた効果的な農家が受け入れられる防除体系マニュアルを作成するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>ジャガイモシロシストセンチュウ(Gp)の防除法として、以下を確立しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化学的防除として、DD 剤及び殺線虫粒剤を用いた防除法</li> <li>・ 耕種的防除として、対抗植物(トマト野生種)の植栽による防除法</li> <li>・ 物理的防除として、冬季間の雪踏みにより野良イモを低減する防除法</li> </ul> <p>また、化学的防除及び耕種的防除を組み合わせることで、効果的に Gp を低減できることを確認しました。</p>
行政における研究成果の活用方針(令和 2 年	<p>本課題の実施により得られた化学的防除、耕種的防除及び物理的防除について、北海道網走市及び大空町の一部地域で発生している本線虫に対する防除対策に平成 29 年から活用しており、引</p>

1月時点)	き続き、防除対策を実施する。
-------	----------------

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載